

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 大事なことをたしかめよう「すがたをかえる大豆」

2 指導の考え方

- 本学年の児童は、1学期単元「ありの行列」の学習において、中心となる語や文をとらえ段落相互の関係を考えながら、内容を大きくとらえたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら、内容を読み取ってきている。

その中で、形式段落を比べることで大きな意味段落のまとまりに気付いたり、説明の工夫を考えるために、言葉を比べて読んだり、言葉ははずして読んだりする読み方を学習してきている。

しかし、自分から中心となる語や文に着目したり、それらの関係を考えながら要点をまとめることは、まだ十分ではない。また、学んだ読み方を進んで活用するまでには至っていない。

- 本単元は、教材「すがたをかえる大豆」の読む活動をもとにして、加工食品についての児童の興味関心を広げ、食べ物博士になるために、調べ、書く活動へつなぐという構成になっている。教材「すがたをかえる大豆」は、そのままでは固くて食べにくい大豆を、様々な工夫を加えることによって、おいしく食べられるように別の食品に変えていく昔の人々のちえが書かれている。文章構成としては、「初め」に話題を提示し、「中」で大豆のすがたを変える工夫と変えた姿の5つの事例を述べ、「終わり」で事例とつないで多くの食べ方が考えられた理由と筆者の感想となっている。特に「中」の5つの事例については、「いちばん分かりやすいのは」「次に」「また」「さらに」等の形式段落の初めに書かれている言葉に着目すると、段落相互の関係をつかみやすい。また、「くふう」「すがた」というキーワードに着目すると、大豆のすがたを変える工夫と変わった姿を、順番に読み取りやすい文構成になっている。

「すがたをかえる大豆」から書く活動へつなぐ「食べ物はかせになろう」は、もっと詳しく知りたいことを考え、調べることを決め、本で調べ、調べた事柄を整理し、文章にまとめるまでの手引きである。調べた事柄を書き出すカード等の見本、書かれた文章の見本等が、児童の書く活動の参考となるようになっている。

- 実践にあたっては、研究主題「教科横断的な読解力を育成する学習指導法の研究」の立場から、PISA型読解力を目指す読解の技能表（資料-1）をもとに、明確な目標を設定し、論理的な思考を促す言語活動を取り入れていくこととする。

中学年の説明文の読みでは、目的に応じて中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えながら要点を読むという学年の系統性を踏まえ、PISA型読解力の読解プロセスから、情報の「取り出し」、「解釈」の段階を中心に、次の三つの実践を中心に、検証を行う。

(ア) 情報の「取り出し」として要点をまとめる段階

- ① 学習過程の中で、読みのめあてにそって初めの答えをまとめる際に、段落相互の関係を表す接続語や、「くふう」「すがた」というキーワードに着目し、大豆をおいしく食べる工夫と変わった姿を読み取る。→**＜本時＞資料-1の表【あ】と対応**
- ② 自分で考えた読みのめあての答えを、キーワードを記したカードの操作等を通して見直し、学級全体の答えをまとめる。カード操作によって、カードに書いた事柄同士の包含や並列関係等として表し、とらえやすくする。→**資料-1の表【い】と対応**

(イ) 「解釈」として、読解の技能を活用しながら文末表現に込められた書き手の意図を読み取る段階

文末表現「～できあがりです。」「～なります。」「～できます。」に着目させ、書き手がその段落の内容にふさわしい適切な表現をしていることについて、「にたことばと比べて読む」という読解の技能を使ってとらえさせる。

さらに、比べて考えるという論理的な思考を生かした発表の仕方を、具体的な言葉を入れた発表カードとして提示し、繰り返し使わせる。→ 資料-1の表[う]と対応

3 単元の目標

- おいしく食べるための工夫をして、大豆のすがたを変えてきた昔の人々の「ちえ」を読み取るとともに、身近な食べ物についても調べ、人々のちえについての見方・考え方を深めることができる。(読むこと)
- 中心となる語や文、段落相互の関係に気を付けながら、おいしく食べるための工夫をした人々の「ちえ」を読み取り、読み取ったことを、叙述を基に理由付けをして説明することができる。(読むこと)
- 調べた食べ物ごとに形式段落をつくり、「調べようと思ったわけー調べた食べ物と事柄ーまとめの感想」の意味段落の構成にして、身近な食べ物から分かる人々のちえについて書きまとめることができる。(書くこと)

4 指導計画 (全17時間・読む10、書く7)

◎学習のねらい (配時)	主な学習活動 と 指導上の留意点 (*)
<p>◎ 題名の大豆について知っていることを整理し「すがたをかえる」をキーワードに冒頭を読み、読みのめあてをつくることことができる。(1時間)</p>	<p>1 単元名とリード文を読んで、教材をもとに調べて書く活動へつなぐという学習の枠組みをつくる。</p> <p>2 題名と冒頭(第1～2段落)をつないで読みのめあてをつくる。</p> <p style="text-align: center;">すがたをかえる大豆</p> <p style="text-align: center;">・見かけをかえること ・そのままは固い</p> <div style="border: 1px solid black; width: 150px; margin: 0 auto; height: 15px;"></div> <p style="text-align: center;">・何のために、どうやって、何にすがたをかえるのか?</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>冒頭「～いろいろ手をくわえて、おいしく食べるくふうをしています。」</p> <p style="text-align: center;">↓ * 題名と冒頭から残った疑問をめあてにつなぐ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>(読みのめあて) おいしく食べるために大豆にどんなくふうをして、どんなすがたにかえるのだろう。</p> </div>
<p>◎ 新出漢字を習得し、語句の意味を理解する。(1時間)</p>	<p>3 新出漢字の練習をし、難語句を調べる。</p> <p>(1) 「豆」、「植」、「育」等の新出漢字の読み方、書き順、使い方を知る。</p> <p>(2) 習った漢字を熟語にして練習する。</p> <p>(3) 全文を音読し、分からない語句について調べる。</p> <p style="text-align: center;">* 国語辞典を使って意味調べをさせる。</p>
<p>◎ 読みのめあてをもとに全文を読み通し、話題提示ー説明ーまとめの構</p>	<p>4 読みのめあてにそって全文を読む。</p> <p>(1) 全文を読み、形式段落の最初の文を確認する。</p> <p>(2) 接続語に着目しながら、内容のまとまりに気付き、読みのめあての</p>

<p>成に気づき、「くふう」と「すがた」というキーワードをもとに大豆をおいしく食べるための工夫と変わった姿を読み取ることができる。(1時間)</p> <p><本時>資料－1の表 [あ] と対応</p>	<p>答えの見当をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初め (わたしたちの毎日の食事には・・・話題提示) ・中「いちばん分かりやすいのは」－「次に」－「また」－「さらに」－「これらのほかに」 ・終わり「このように」,(感想) <p>5 読みのめあての答えを書きまとめる。</p> <p>* 「～のくふうをして」,「～にすがたをかえる」というまとめ方を示して,書かせる。</p>
<p>◎ 自分で考えた読みのめあての答えをもとに友達の読み取りと比べたり,カード操作を通して書かれている事柄の関係やその接続の仕方を見直したりしながら,学級全体の答えをまとめることができる。(1時間)</p> <p>資料－1の表 [い] と対応</p>	<p>6 読みのめあての答えについて話し合う。</p> <p>* 答えの傾向を事前に把握しておき,カード操作につなぐ。</p> <p>(1) 「どんな工夫をして,何にすがたを変えたのか」を発表する。</p> <p>* 読み取りが不正確な段落は,カード操作を通して読み取らせる。</p> <p>(2) 読みのめあての答えを全体でまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「答えの方向」</p> <p>いちばん分かりやすいのは,大豆をその形のままいったり,にたりして,やわらかく,おいしくするくふうをして,豆まきに使う豆やに豆にすがたをかえる。(3段落)</p> <p>次に,こなにひいて食べるくふうをして,きなこにすがたをかえる。(4段落)</p> <p>また,大豆にふくまれる大切なえいようだけを取り出して,ちがう食品にするくふうをして,とうふにすがたをかえる。(5段落)</p> <p>さらに,目に見えない小さな生物の力をかりて,ちがう食品にするくふうをして,なっとうやみそやしょうゆにすがたをかえる。(6段落)</p> <p>これらのほかに,とり入れる時期や育て方をくふうして,えだ豆やもやしにすがたをかえる。(7段落)</p> </div>
<p>◎ まとめの段落の「ちえ」というキーワードから,説明の事例を見直し,学習計画を立てることができる。(1時間)</p>	<p>7 読みのめあての答えは3～7段落でまとまったことから,8～9段落の役割について話し合う。</p> <p>8 「～人々のちえにおどろかされます。」から,どんなちえに驚かされるのかを確かめる学習計画を立てる。</p> <p>* 書き手の感想に着目させ,どこに昔の人々のちえがあるのか読み確かめようという意欲につなぐ。</p>
<p>◎ 繰り返しや文末表現から昔の人々のちえを読み取ることができる。(1時間)</p>	<p>9 学習計画をもとに,工夫と変わった姿について確認し,どんなちえがあるのかを読み確かめる。</p> <p>(1) 大豆をいったり,にたり,こなにひいたりして食べやすくした人々のちえを読み確かめる。(3～4段落)</p>
<p>◎ 大豆をおいしく食べる工夫と変わったすがたを通して文末表現に込められた書き手の意</p>	<p>(2) 大切な栄養だけを取り出しちがう食品にする工夫をした人々のちえを読み確かめる。(5段落)</p> <p>-----</p> <p>(3) 目に見えない小さな生物の力をかりてちがう食品にする工夫をした人々のちえを読み確かめる。(6段落)</p>

<p>図を考えながら昔の人々のちえを読み確かめることができる。(3時間)</p> <p>資料－１の表 [う] と対応</p>	<p>(4) 取り入れる時期や育て方を工夫をした人々のちえを読み確かめる。(7段落)</p>
<p>◎ 読み確かめてきたことをもとに、題名の意味を振り返り、読みのまとめをすることができる。(1時間)</p>	<p>10 読みのまとめをする。</p> <p>(1) 「すがたをかえる大豆」の学習から、書き手が驚かされたちえを振り返る。 * 既習の掲示物を使って、読み確かめてきたことを振り返らせる。</p> <p>(2) これまでの学習から、読んで分かったことや考えたことと、読み方のまとめをする。</p>
<p>◎ 調べたことを書いたカードをもとに調べた理由－調べた事柄－まとめの構成で食べ物から分かるちえを書きまとめることができる。(7時間)</p>	<p>11 食べ物博士になるために調べることを決め、調べ方を見通す。 * 目次や索引の使い方とそのよさを考えさせる。</p> <p>12 本を使う調べ方を知り、調べたことをカードにまとめる。 * 調べたことは、大事なことは落とさずに情報カード(調べたこと、調べた日、書名、出版社名、出版年、調べて分かったことなど)にまとめさせる。</p> <p>13 カードをもとに文章に書きまとめる。 (1) カードをもとに意味段落のまとまりをつくったり、順序を考えたりする。 (2) カードを並べて文章構成をして作文用紙に書きまとめる。</p>

5 本時 (3 / 17)

(1) 本時の目標 (資料－１の [あ] と対応)

読みのめあてをもとに全文を読み通し、話題提示－事例の説明－まとめという構成に気づき、「くふう」と「すがた」というキーワードから、大豆をおいしく食べるための工夫と変わった姿を読み取ることができる。

(2) 本時の仮説

読みのめあての答えをまとめる際に、段落相互の関係を表す言葉(「いちばんわかりやすいのは」「次に」「また」「さらに」「これらのほかに」「このように」)に着目して、意味段落のまとまりや説明の順序をとらえさせ、キーワードをもとにした書き表し方を示すことで、読みの答えを書きまとめることができると考える。

(3) 本時の展開

主な学習活動と内容	指導上の留意点
<p>1 学習のめあてを確認し、どんなところに気を付けて全文を読めばいいかを確認する。</p>	<p>* 読みのめあて「おいしく食べるために、大豆にどことなくふうをして、どんなすがたにかえるのだろう。」を想起し、学習のめあてにつなぐ。</p>
<p>(学習のめあて) 読みのめあてにそって全文を読み、読みのめあての答えを書きまとめよう。</p>	
<p>○ 既習経験から、全文を読むときに注意することを確認する。</p>	<p>* 注意させることの内容 [文章構成に気付かせるために] ・形式段落に番号をつける。 ・大きな意味のまとまりを考える。</p>

2 全文を読み、読みのめあての答えの見当をつける。

(1) 全文を読み、形式段落の最初の文を確認する。

(2) 接続語に着目しながら内容の大きなまとまりに気付く。

(初め) 1, 2 段落

・読みのめあてをつくった冒頭ととらえる。

(中) 3, 4, 5, 6, 7 段落

・「いちばん分かりやすいのは」「次に」「また」「さらに」「これらのほかに」と事例の説明に気付く。

(終わり) 8, 9 段落

・「このように」とまとめる働きに気付く。

(3) 読みのめあての答えの見当をつける。

3 読みのめあての答えを学習プリントに書きまとめる。

(教師の指示)

読みのめあてから「～のくふうをして」「～にすがたをかえる」(キーワード)と分かるところに線を引いて、プリントに答えをまとめてみましょう。

4 本時の学習をまとめる。

[キーワードに着目させるために]

・読みのめあての答えにつながる場所に線を引きながら読む。

* 接続語に対しての児童の気付きがなければ、[文章構成に気付かせるために] 教師の方から、形式段落の最初の文に着目させる。

* 児童の話し合いの中で、「このように」の接続詞の働きから、まとめの大きなまとまりになっていることに気付かせる。

* 文章全体の中から、どこの段落に目をつければいいのかを確認させる。

* [形式段落の要点を抜き出すために]
・「～くふうをして～にすがたをかえる」と書き方を示す。

* 答えのまとめ方について振り返らせる。

[本時で書かせた学習プリント]

終わり	中					はじめ
⑧ ⑨	⑦	⑥	⑤	④	③	② ①
<p>学習のめあて 読みのめあてによって全文を読み、読みのめあての答えを書きまとめるよう。</p> <p>大事なことを見しめよう すがたをかえる大豆 国分 敬典</p> <p>おいしく食べるために、大豆にどんなくふうをして、どんなすがたにかえるのだろうか。</p> <p>読みのめあての答えと、くふうをして</p>						
<p>大豆に、くふうされる食べ物はないようだけ、大豆を取り出してちがう食品にするくふうをして</p> <p>また、大豆に、くふうされる食べ物はないようだけ、大豆を取り出してちがう食品にするくふうをして</p> <p>次に、大豆に、くふうされる食べ物はないようだけ、大豆を取り出してちがう食品にするくふうをして</p> <p>さらに、大豆に、くふうされる食べ物はないようだけ、大豆を取り出してちがう食品にするくふうをして</p> <p>大豆に、くふうされる食べ物はないようだけ、大豆を取り出してちがう食品にするくふうをして</p> <p>大豆に、くふうされる食べ物はないようだけ、大豆を取り出してちがう食品にするくふうをして</p>						
<p>大豆に、くふうされる食べ物はないようだけ、大豆を取り出してちがう食品にするくふうをして</p> <p>大豆に、くふうされる食べ物はないようだけ、大豆を取り出してちがう食品にするくふうをして</p> <p>大豆に、くふうされる食べ物はないようだけ、大豆を取り出してちがう食品にするくふうをして</p> <p>大豆に、くふうされる食べ物はないようだけ、大豆を取り出してちがう食品にするくふうをして</p> <p>大豆に、くふうされる食べ物はないようだけ、大豆を取り出してちがう食品にするくふうをして</p> <p>大豆に、くふうされる食べ物はないようだけ、大豆を取り出してちがう食品にするくふうをして</p>						

大豆に、くふうされる食べ物はないようだけ、大豆を取り出してちがう食品にするくふうをして

大豆に、くふうされる食べ物はないようだけ、大豆を取り出してちがう食品にするくふうをして

大豆に、くふうされる食べ物はないようだけ、大豆を取り出してちがう食品にするくふうをして

大豆に、くふうされる食べ物はないようだけ、大豆を取り出してちがう食品にするくふうをして

大豆に、くふうされる食べ物はないようだけ、大豆を取り出してちがう食品にするくふうをして

大豆に、くふうされる食べ物はないようだけ、大豆を取り出してちがう食品にするくふうをして

資料－1

PISA型読解力を目指す読解の技能表（試案）

		低 学 年
学習指導要領 「読むこと」の目標		書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。
	(学習過程)	説明文の大体を読む・物語文のあらすじを読む
情報の取り出し	<p>①冒頭から読みのめあてをつくる</p> <p>②読みのめあての答え(予見)をまとめる</p>	<p>①・題名から、何について書かれているのかを予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題名で予想したことが冒頭でどう書かれているのか確かめる。 ・はじめに、「だれが、いつ、どこで、どうしたか等」のお話の基本的な要素に気付く。 ・問いの文や問題提示の文（お話の展開の方向）をつかむ。 ・問いの文のキーワードを見つける。 <p>②・形式段落という概念（大まかなまとまり）があることを理解し、一行空きや一マス下げに注意して、話のまとまりに分ける。</p> <p>[順序…説明やお話の展開の順序を考える。]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話のまとまりの初めの文に注意して、時間の順序や事柄の順序を読む。 ・挿し絵や写真とことばをつないで読む。 ・人物のしたことを抜き出し、順につないで、あらすじを読む。 <p>[比較…めあてに応じた答え、お話のはじめと終わりを比べて考える。]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問いに対する答えの文を見つけ、読む。 ・その文の中で、キーワードとその説明を読む。 ・終わりに、主人公が、いつ、どこで、どうなったかを読み、はじめと比べる。
解 釈	③予見を確かめる計画を立て読み確かめる	<p>③・はっきりしないところやわからないところを整理して確かめる計画を立てる。</p> <p>[比較…ふつうの言葉づかいと比べて説明の工夫を考える。]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉ははずして読む。 ・にた言葉と比べて読む。 ・繰り返しの表現を読む。 ・文末表現を読む。 ・比喩表現を読む。 <p>[類推…前後とつないで想像して読む]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・叙述を基に、場面の様子や人物の気持ち等を想像することができる。 ・お話の空所を読む。 ・主人公の行動やわけや気持ちを想像する。
熟考・評価	④読みのまとめをする	<p>④・書かれていたことについて自分の知識や経験と比べて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語文の好きなどころなどを指摘する。 ・物語文で、自分ならどうするか等、登場人物になりきって楽しむ。

* PISA型読解力の読解プロセス「情報の取り出し－解釈－熟考・評価」は、児童の読みの学習過程と対応させて考えられたプロセスではない。そのため「情報を取り出す」、「情報から推論して意味を理解する解釈」、「情報を自らの知識や経験に関連付ける熟考・評価」のそれぞれに必要な技能は、読みの学習過程の中のどの段階で、主に育成されているのかを考えて、表を作成している。

中 学 年	高 学 年
<p>目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。</p>	<p>目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。</p>
<p>→説明文の大体を読む・物語文のあらすじを読む</p> <p>↓</p> <p>説明文の要点を読む・物語文の人物像を読む</p> <p>①・既習から題名と内容のつながりを想起し題名の言葉を読む。 ・「だれが、いつ、どこで、どうしたか等」のお話の基本的な要素を確認する。 ・語り手の役割を理解する。</p> <p>②・形式段落の初めの接続詞から、前の段落との関係を考える。 <u>・形式段落や場面を意味のまとまりごとに大きくとらえる。</u> <u>・キーワードに目をつける。・段落の要点を抜き出す。【あ】</u> <u>・内容の関係とその接続の仕方を理解する。【い】</u> (順序、原因理由、逆接、並列等の接続について理解する。) ・人物の行動や気持ちをつないで変わらない点を見つける。 ・場面と場面を比べて人物の行動や気持ちの変化を読む。 ・部分をつなげ、比べることなどを通して全体構造を読む。 ・文脈を理解するために、情報を簡単な図に整理する。</p> <p>③・<u>文末までに書かれていることとつないで、文末表現に込められた書き手の意図を読む。【う】</u> ・事例の挙げ方や順序から、書き手の意図を読む。 ・場面と場面とを想像によってつなぎながら読む。 ・呼称の変化を読む。 ・場面と場面を比べて読む。 ・句読点を読む。 ・ダッシュを読む。 ・比喩表現を読む。 ・人物の行動や気持ちの変化から変わらない心を読む。 ・自分ならどうするかを考えながら読む。</p> <p>④・意見を読んで、それに対して、賛成・反対などの自分なりの意見とその理由についても考える。 ・新しい情報について、自分が読む前と読んだ後を比べて考えた感想や意見をつくる。 ・登場人物の体験や思いを自分の生活等と関わらせて考える。</p>	<p>→説明文の大体を読む・物語文のあらすじを読む</p> <p>↓</p> <p>説明文の要点を読む・物語文の人物像を読む</p> <p>↓</p> <p>説明文の要旨を読む・物語文の人物の生き方を読む</p> <p>①・読んでどうするのかという読みの目的に応じて、読みのめあてを意味づける。 ・登場人物の設定意図を読む。 ・語り手の設定意図を読む。</p> <p>②・文末表現等を手がかりに事実と意見について分別する。 ・目的や意図に応じて、内容を短く要約したり、くわしく説明したりしてまとめる。 ・各場面で主人公の生き方につながる言動や考え方を見つける。 ・目的に応じて、大づかみに読んだり、比べて読んだり、目次や索引を利用したり、情報の効率的な利用をする。 ・文章構成について、部分の関係を図示する。</p> <p>③・事柄の関係等の文章構成や、語句の使い方、文末などの表現を手がかりに、書き手の意図を読む。 ・比喩的な表現について考え、その象徴的な効果を読む。 ・主題(要旨)に関する意識をもって、多様な情報を関連づける。</p> <p>④・書かれた内容と書き表し方について自分の考えをもつ。 ・読む前と読んだ後の自分の見方、考え方を比べ、何が、どうしてどのように変わったかを表現する。</p>